

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

中信安全登山技術研修交流会 「ボルダリングと登山」

今年の中信安全登山技術研修交流会を10月19日、20日に開催する。中信地区とは謳っているが、来る者は拒まず。誰でも参加できるので、もし都合の合う方はご参加いただきたい。今年の技術研修は、初日「ボルダリング」2日目は生坂村の京ヶ倉をフィールドに読図と安全登山技術（ロープワークを含む）を行なう。もちろん、この研修会のメインである交流会も大々的に行なう。部分参加でも大歓迎である。参加できる方は、事務局の大町北高今滝先生、もしくは私までご連絡を。大ざっぱな内容と日程は以下の通り。

19日 17時～22時くらいまで

夕食を挟んでボルダリングと登山に関する諸課題を巡っての研修と交流

20日 朝食後、生坂村へ移動し、京ヶ倉登山（日帰り）

*宿泊は池田工業高校合宿所を利用。（シュラフをお持ちください）

*食費実費、宿泊代として100円をいただきます。

池工山岳部 OB 交流有明山登山 その1

池工山岳部はその昔、昭和60年から平成3年まで7年間かけて、有明山の登山道を復活させたという輝かしき伝統を持つ。松川村から登るこの登山道は、その後村の観光課でも手を入れ、今では村民登山も行なわれる立派な道として多くの人に愛されている。僕は、池工赴任以来有明山こそ池工山岳部の精神そのものと生徒に話してきたが、そう言いながらなかなか登る機会を持てずにいた。赴任2年目の昨年は偶々池工創立90周年ということも相俟って、当時の顧問である矢口和成先生やOBで長山協副会長の西田均さんや大町山の会の会長榛葉伸男さん、白馬登高会の山田正充さんら山仲間にも声をかけ賛同を得る中で、年度当初から生徒には「秋には当時開拓をしたOBと一緒にこの山に登るぞ」と言っていたのだが、夏の豪雨の影響で一部アプローチが決壊、村として通行止めの措置をとっていたため、直前に断念せざるを得なかった。そんなこともあり、今年は何としても実現させたいと思い、春から計画してきた。以下にその報告をしたいのだが、その前にこの登山道のことについて知っていただこうと思う。以下は、当時作業を中心になって推進した顧問、矢口和成先生の記述（中信高校年報2006創刊30年記念特別号）である。

***** 有明山登山道復活の昔話 矢口和成 *****

雄大な北アルプスの麓の風光明媚な土地に位置する池工の学舎。その西真正面に、北アルプスの銀嶺に負けず劣らず威風堂々とそびえる有明山。信濃富士とも呼ばれ親しまれている霊山でもあり、信仰の山でもある。有明山山頂には、祠・鳥居や地頭等の石仏が数多く祭られており、信仰の山であることを物語っている。

池工山岳部は、昭和59年9月14日（金）～15日（土）学校に一番近いがいつもただ眺めているだけで登ったことのない有明山への登山を計画する。難山でルートも知らないため、地元の人で池工の大先輩の遠藤常夫さんに道案内を依頼する。中房より入山して登頂

し、下山は宮城の黒川沢へのコースを途中の笹藪をかき分けながらの山行をした。この時の話に、有明山の登山ルートが3コースあるうち、私も昔登ったことのある松川村の馬羅尾より登るルートが廃道となり、道が全くわからなくなっている旨の話を聞きとても残念に思う。学校での反省会で、来年は学校に一番身近かな山である有明山への一番近いルートを復活させようと話し合い、山岳部全員意見の一致を見る。

○第1回有明山登山道刈払い 昭和60年9月14日(土)～15日(日)

用意した道具は、エンジン付草刈機2台・鎌10丁・ナタ・鋸・ガソリン10リットルである。昨年度卒業のOBに連絡を取り2名参加し、道案内をしてくれる遠藤さんを含め、総勢12名で行う。

長いこと廃道となっていたためか、崩れている箇所もあるし太い立木や枝は鋸でなければ切れないくらいに成長していた。登山道へ入るとすぐ熊笹が繁茂しており長い間人が通らなかった様子をまざまざと見せつけられる。第1回目は芦間川より尾根へ取り付いた上部までの刈払いにて終了する。

○第2回有明山登山道刈払い 昭和61年9月13日(土)～14日(日)

用意した刈払い用具は、昨年と同様で、参加人数はOBも含め総勢20名で行う。1日目は、昨年刈払った登山道を再度拡幅整備し、2年連続で頂上を踏めないのでは部員がかわいそうなので不完全な刈払いでも良しとして、とにかく登頂を目指し、昼過ぎに山頂に到達した。

○第3回有明山登山道刈払い 昭和62年9月19日(土)～20日(日)

用意した道具は、エンジン付草刈機2台・鎌10丁・ナタ・鋸・ガソリン10リットルである。総勢18名で行う。また登山道の解かり難い箇所に道標を設置するため、板に文字を彫りペンキで色入れをし、防腐剤を塗布した案内板4枚を作成し持参する。案内板の「中房方面」・「有明・松川方面」を、多くの登山者が間違えたと聞く北岳山頂の分岐点に設置する。また、「松川方面」・「有明方面」を、昨年池工生も間違えた尾根の分岐点に設置してくる。後日、新聞に掲載・報道された事により、20件近くもの電話・手紙等による問い合わせや、なかには今後の活動資金にと1万円もの篤志寄付をしてくれる方もあるなど、反響の大きさに部員一同驚かされる。

11月3日の文化の日には、松川村役場で年輩の大功劳のあった方々の席へ同席させていただき、太田村長さんより感謝状とエンジン付草刈機1台をいただく。(以下次号)

編集子のひとりごと

早いもので、小生就職して31年目。今年はリフレッシュ年休を取得できる年である。所詮自分の年休を消化するだけということには違いないが、土日を絡めれば9連休になる。権利とは言え、普段の年にそういう休みのとり方はしにくい。昨年度分会長をしていたこともあるし、権利は率先して使うことで市民権を得るのだ。そんな思いもあって、9月下旬、中間テストを利用して、思い切ってリフレッシュ年休をとって妻と二人で8日間ヨーロッパを駆け足で回ってきた。ドイツ、スイス、フランスという入門コースではあったが、途中ユングフラウ、メンヒ、アイガーを間近に見て来ることができた。下から見た時は、頂上までくっきり見えていたのに、残念ながらユングラウフヨッホに着いたときは、吹雪だった。しかし山は逃げない。次回への宿題と思えばそれもまたよし。女房殿との二人旅を楽しんできた。(大西 記)